

再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：三浦 真紀

事業名	地域高規格道路 一般国道2号 玉島・笠岡道路（Ⅱ期） <small>たましま かさおか</small>	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中国地方整備局
起終点	自：岡山県浅口市金光町佐方 至：岡山県笠岡市西大島新田 <small>おかやまけんあさくちしこんこうちようさがた おかやまけんかさおかしにおおしましんでん</small>	延長	9.4 km		
事業概要 一般国道2号は、大阪市を起点とし、瀬戸内海沿岸の諸都市を連絡し、北九州市に至る延長約670kmの主要幹線道路である。 玉島・笠岡道路（Ⅱ期）は、岡山県西部地域の交通混雑の緩和及び交通安全の確保等を目的とした延長9.4kmの道路である。また、地域高規格道路「倉敷福山道路」の一部を構成するものである。 <small>おおさか</small> <small>きたきゅうしゅう</small>					
H20年度事業化	H12年度都市計画決定	用地未着手	工事未着手		
全体事業費	約529億円	事業進捗率 (H21年度末現在)	1%	供用済延長	0.0km
計画交通量	48,000 ~ 49,200 台/日				
費用対効果 分析結果	B/C (3便益) 事業全体 3.9 残事業 4.0	総費用 (残事業)/事業全体 360/363 億円 事業費：322/325 億円 維持管理費：38/38 億円	総便益 (残事業)/事業全体 1,428 / 1,428 億円 走行時間短縮便益：1,036/1,036億円 走行費用減少便益：252/252 億円 交通事故減少便益：140/140 億円	基準年 平成22年	
感度分析の結果 残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C= 5.3 (交通量+10%) B/C= 3.2 (交通量-10%) 事業費変動：B/C= 3.6 (事業費+10%) B/C= 4.4 (事業費-10%) 事業期間変動：B/C= 3.4 (事業期間+20%) B/C= 4.5 (事業期間-20%)					
事業の効果等 ①円滑なモビリティの確保 ・損失時間の削減が見込まれる ・バス路線の新設による利便性向上や寄島町から倉敷市方面に向かうバス路線の定時性が確保されるなど利便性が向上 ・浅口市金光町から福山駅（新幹線駅）へのアクセスが向上 ・笠岡市から岡山空港（第三種空港）へのアクセスが向上 ②物流効率化の支援 ・笠岡港港町地区工業団地から水島港（特定重要港湾）へのアクセスが向上 ・農林水産品を主体とする地域：浅口市（桃）、主な出荷先：岡山県内、広島方面 ③国土・地域ネットワークの構築 ・日常活動圏の中心都市へのアクセス向上（浅口市～笠岡市） ④個性ある地域の形成 ・拠点開発プロジェクト、地域連携プロジェクト、大規模イベントを支援する（浅口市工業団地） ・主要な観光地へのアクセス向上（倉敷美観地区の入り込み客数（H20）：3,242千人/年） ⑤安全で安心できるくらしの確保 ・周辺ネットワークとの一体的な整備による三次医療施設へのアクセス向上（浅口市～川崎医大付属病院、浅口市～福山市民病院） ⑥安全な生活環境の確保 ・死傷事故件数の削減が見込まれる ⑦災害への備え ・国道2号が岡山県地域防災計画における第1次緊急輸送道路として位置づけあり ⑧地球環境の保全 ・CO2排出量の削減が見込まれる ⑨生活環境の改善・保全 ・NOx排出量の削減が見込まれる ・SPM排出量の削減が見込まれる ・騒音レベルが夜間要請限度を超過している区間において、騒音レベルの低下が期待される					

関係する地方公共団体等の意見

玉島・笠岡道路（Ⅱ期）は、交通混雑の緩和等に重要な役割を果たすことが期待されており、3市1町（倉敷市、浅口市、笠岡市、里庄町）から構成される「国道2号玉島笠岡間整備促進協議会」より、早期整備の要望を受けている。

岡山県知事の意見：

一般国道2号 玉島・笠岡道路（Ⅱ期）について、継続するとの対応方針（原案）については異存ありません。

本事業の整備により、国道2号やその周辺道路の混雑軽減及び交通事故の減少等が期待されるとともに、県南西地域と福山地域の連携強化、物流ネットワークの形成や企業立地の支援による沿線地域の活性化を図るためにも、本事業の早期完成が必要である。

事業評価監視委員会の意見

事業者から事業の概要、評価結果及び対応方針（原案）について説明を受け、事業が適切に実施されているか審議を行い、審議の結果、再評価対象の事業は適切に実施されており、事業継続とすることとした事業者の判断は、妥当であると意見集約した。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

周辺開発の増進や人口増加に伴い、慢性的な渋滞や交通事故が多発している。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成20年度に事業化し、現在、調査・設計を推進している。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

現在、調査設計を行っており、早期供用を目指し事業を推進する。

施設の構造や工法の変更等

今後の事業の実施にあたっては、コスト縮減に努力しつつ、事業を推進していく。

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。